

金融機関と連携し地域活性化

ベンチャーファンドで後押し

地方のスタートアップ支援を通じた地域活性化を。大垣共立銀行(OKB)、OKBキャピタル(岐阜県大垣市)と名南M&Aは共同で、ベンチャーファンド「OKB 4S循環ファンド」を立ち上げた。名称の「4S」には、地域を活性化させる4つの「[S]」、「[Success]」、「[Start Up]」、「[Success]」の意味を込めた。地域金融機関とM&A仲介企業が互いに経営資源を結集したベンチャー支援とは。OKBキャピタルの岡田恒二社長、土川諒太郎長代理、名南M&Aの福田貴志取締役、伊藤将規投資担当に聞いた。

— 東海地区を代表する地方銀行とコンサルティンググループがタッグを組みました。

岡田社長「従来からさまざまな場面で連携してきた。相互理解が深い関係性がある。名古屋を拠点としたコンサルティングを展開するグループとして有力な存在だと考えている」

櫻田取締役「我々、名南M&Aを含む名南コンサルティングネットワークは、すでに2019年からOKBグループと中心堅く、中小企業事業承継を支援する合弁会社「未来リンクパートナーズ(名古屋市中村区)」を設立している」

岡田「それぞれの拠点である岐阜県西濃地域や愛知・名古屋に限定せず、東海3県や滋賀県を網羅して投資案件を探っている」

— 地域にどのようなアプローチやビジネスのアイデアを期待しますか。

古川部長代理「OKBは現在、大学の研究室との関係性を深めている。大学のスタートアップ企業を各種問わず幅広く支援したい。例えば岐阜大学は大学の起業数で高い伸び率を示している。設備学習に即応したい」



名南M&A 櫻田取締役

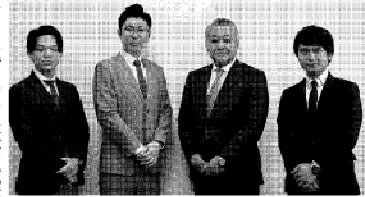
「一方向が連携することでのような事業化支援ができませんか。」

岡田「地域は地域である。このネットワークを駆使して、ビジネスマッチングの機会を創出できる。昨今では、大手や老舗も固有の技術を生かして次の事業展開を図るためにスタートアップとの連携に強い関心を持っている」

櫻田「スタートアップの経営は常に課題が山積している。いわゆる「土産」のグループとして豊富な機能を生かし、彼らの直面する課題の解決を総合的に支援していきたい」

岡田「財務や組織の仕組みづくりなど、名南グループはレベルの高い経営支援が可能だ。どのような支援を田口として想定していますか。」

岡田「IPO(新規株式公開)やM&Aになる。M&Aを選択する場合の手は限定していないが、やはり東海地域の企業の発展につなげられたい」



地に足をつけた支援を進めていく

櫻田「日本では大半のベンチャーが目指すが、アメリカでは育て上げた企業をM&Aするという出口も多い。専門企業として、M&Aという選択肢を提示したい」



OKBキャピタル 古川部長代理

「スタートアップ支援を通じて地域貢献を自覚に働いています。」

岡田「地銀の使命は短期的な視点にとらわれないうちで地域振興にある。地に足を付けて支援した地域のスタートアップが、やがて将来、地域経済活性化の起爆剤となって欲しい」

古川「我々が起点となり岐阜・愛知を中心に、ベンチャーが次のベンチャーを育てるような風土を育みたい」

櫻田「企業があつて人がいる。人が集まると初めて地に力が生まれる。人が集まるためには職場が必要になる。東海地区に人が集まるだけでなく資金も支援機能もそろえたい。起爆後も東京に出すことで新しい事業を拡大できる」



名南M&A 伊藤投資担当

櫻田「長年の連携が土台になった1日や1日でできない信頼関係がある。M&Aの専門家としてだけでなく、名南グループとしての期待も感じている」

伊藤「スタートアップ支援に特化した運営することで、より新しいニーズを探りたい。— ありがとうといま



OKBキャピタル 岡田恒二社長

PR

